

『宮城考古学』第13号抜刷
2011年12月10日発行

芳賀寿幸さんの逝去を悼む

相 原 淳 一

芳賀寿幸さんの逝去を悼む

相原 淳一

芳賀寿幸さんは1950年に柴田町船迫の名刹大光院に生まれ、2011年5月13日に他界されました。県指定ほか多くの文化財を所蔵する大光院に生を享けたことは芳賀さんのその後の人生に大きな影響を及ぼしたものと思われます。また、いつか聞いた話では、芳賀さんの親戚筋の方が白石の柳町に住んでおられ、そこで土器などを見たり、触れたりしていたということでした。その土器は斎川改修工事出土土器の一部で、出土地点等を克明に記した図を片倉信光氏に預けて出征し、1944年にペリリュー島で戦死した芳賀伯卿氏資料（『白石市史』別巻考古資料篇所収）だと教わりました。

1966年8月には後年発掘調査をすることになる向畑遺跡で土器片数点と石鏃1点を採集したことが記されています。67年9月に刊行された『郷土研究会会報』第1号（柴田町公民館）中には、三渡俊一郎氏（東海高熱仙台工場長・日本考古学協会会員）のもとに集った中高生の考古学研究グループの一人として芳賀さんが紹介されています。

仙台一高から福島大学経済学部へ進学した芳賀さんは福島大学考古学研究会に所属し、発掘調査や報告に活躍されました。70年には福島県小高町浦尻貝塚・石川町鳥内遺跡の調査、71年には二本松市塩沢上原A遺跡、73年には国見町岩淵遺跡の調査に参加しました。一方、郷里では72年には兔田窯跡・寺後遺跡、73年鹿野遺跡・森合横穴群、74年寺後古墳群の調査を行いました。また、72年には新幹線関係遺跡分布調査員として白石市地藏院館跡・谷津川遺跡ほかの調査に参加しました。

1974年には宮城県教育庁文化財保護課に嘱託として勤められ、東北自動車道関連の大衡村上深沢遺跡、東北新幹線関連の白石市田中遺跡・谷津川遺跡ほか、老人ホーム建設に関わる柴田町船岡迫遺跡、船迫ニュータウンに伴う土合横穴墓ほかの発掘調査をしています。

その後、宮城県の行政職になられた芳賀さんは発掘調査の第一線からは退かれ、柴田町史の執筆に柴田町文化財保護委員にと多忙な日々を過ごされました。97年の宮城県考古学会設立準備会では会則検討を担当し、98年5月の宮城県考古学会発足後は第1期役員として総務を担当しました。近年では古代柴田郡や柴田駅に関わる論考を『宮城考古学』誌上に発表されていたのは記憶に新しいことです。

芳賀さんは今年あの天津波の日に水没した多賀城市大代の宮城県中南部下水道事務所に勤務していました。幸い、難を逃れ、この春定年を迎えましたが、その後も引き続き職に留まり、下水道復旧に全力を尽くしておられました。一方、文化財保護委員を務める柴田町からは物産交流館オープンに合わせた原稿依頼を受け、5月11日仙台市民図書館で調べ物の最中に脳幹出血により倒れ、13日には帰らぬ人となりました。まだやりたいこともいっぱいあったかと思うと、残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。



2001.12. 東京出張の折

調査のあゆみ

1950年 柴田町船迫大光院に生まれる

年不詳 白石市柳町の芳賀^{のぶあき}伯卿氏資料（斎川改修工事出土土器）に子どものころに接する

○芳賀伯卿氏は斎川改修工事出土土器と出土地点・層序を克明に記した図を片倉信光氏に預けて出征し、1944年にペリリュー島で戦死（『白石市史』別巻考古資料篇所収）

1964年春 中学生が柴田町船岡大橋遺跡で渦巻文様の入った土器片を持ってきた記事

（三渡俊一郎・島貫邦義 1967「遺跡めぐり（1）船岡大橋遺跡」『郷土研究会会報』第1号）

○中高生の考古学研究グループとして少年たちの名が記されている。2学年上には現在明治大学教授の岩井憲幸氏の名がある。岩井氏はロシア文学、特に大黒屋光太夫などの日露交渉史が専門。現在、埼玉県在住

1966年8月 柴田町向畑遺跡で土器片数点と石鏃1点を採集した

（芳賀寿幸 1974「向畑遺跡調査概報」『郷土研究会会報』第7号 柴田町郷土研究会）

1970年 福島県小高町浦尻貝塚の調査（福島大学考古学研究会）

福島県石川町鳥内遺跡の調査（福島大学考古学研究会）

1971年 福島県二本松市塩沢上原A遺跡の調査（福島大学考古学研究会）

大河原町・村田町・柴田町の新幹線関係遺跡分布調査員

1972年2～3月 白石市地蔵院館跡・田中遺跡・谷津川遺跡、高清水町堂の池遺跡・下佐野遺跡・

下折木遺跡、築館町玉荻台遺跡の試掘調査に参加

同年7～8月 柴田町兎田窯跡の発見・調査、寺後遺跡の調査

1973年 福島県国見町岩淵遺跡の調査（福島大学考古学研究会）

柴田町鹿野遺跡・森合横穴群の調査

1974年2～3月 柴田町寺後古墳群、大衡村上深沢遺跡、白石市地蔵院館跡・田中遺跡・谷津川遺跡、

高清水町堂の池遺跡・下佐野遺跡・下折木遺跡、築館町玉荻台遺跡の調査に参加

同年4月～翌3月 白石市田中遺跡・谷津川遺跡、利府町八幡崎B遺跡、古川市留沼遺跡、大衡

村上深沢遺跡、築館町八沢要害遺跡、高清水町西手取遺跡、老人ホーム建設に関わる柴田町船岡迫遺跡、県農業開発センター建設に伴う名取市今熊野遺跡、船迫ニュータウンに伴う土合横穴墓の調査に参加（宮城県教育庁文化財保護課嘱託）

1984年6月 柴田町文化財保護委員に就任（2011年5月亡くなられるまで）

研究論文

- 福島大学考古学研究会 1971『浦尻貝塚』福島大学考古学研究会発掘調査報告第1冊（共著）
- 芳賀寿幸 1971「宮城県柴田町小成田遺跡出土の遺物」『福島大学考古学研究会月報』第4巻第3号
- 芳賀寿幸 1972a「台遺跡」『郷土研究会会報』第5号 2～6頁 柴田町郷土研究会
- 芳賀寿幸 1972b「宮城県柴田町不動堂遺跡発見の縄文式土器について」『福島大学考古学研究会月報』第5巻第5号
- 芳賀寿幸 1973a「鹿野遺跡」『郷土研究会会報』第6号 4～11頁 柴田町郷土研究会
- 芳賀寿幸 1973b「宮城県倉元向遺跡発見の魚形線刻石とその他の遺物」『福島大学考古学研究会月報』第6巻第5号
- 芳賀寿幸 1974「向畑遺跡調査概報」『郷土研究会会報』第7号 8～20頁 柴田町郷土研究会
- 志間泰治・芳賀寿幸 1974『柴田町の文化財』柴田町の文化財第5集 柴田町教育委員会
- 芳賀寿幸 1975「船岡迫遺跡の調査」『郷土研究会会報』第8号 柴田町郷土研究会
- 芳賀寿幸ほか 1975「塩沢上原 A 遺跡 ピット」『東北自動車道遺跡調査報告』福島県文化財調査報告書第47集
- 志間泰治・芳賀寿幸 1976『船迫ニュータウン地内遺跡調査報告』柴田町文化財調査報告書第8集（このうち、鹿野遺跡・寺後遺跡・土合横穴墓を執筆）
- 芳賀寿幸 1979『石塚古墳』柴田町文化財調査報告書
- 芳賀寿幸 1983「考古資料」『柴田町史』資料篇Ⅰ 1～278頁 柴田町
- 芳賀寿幸 1989「柴田町の歴史－旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代」「律令時代－町内の遺跡・出土遺物」「鎌倉・室町時代－町内の遺跡・出土遺物」『柴田町史』通史篇Ⅰ 219～345頁、394～418頁、500～522頁 柴田町
- 佐々木安彦・芳賀寿幸・石黒伸一郎 1995『上野山古墳群分布調査報告書－宮城県柴田郡に所在する東北最大規模の高塚古墳群－』柴田町・村田町・大河原町共同推進事業協議会
- 芳賀寿幸 2004「古代柴田郡分割の謎を探る」『之波太』第31号 1～8頁 柴田町郷土研究会
- 芳賀寿幸 2006「東山道陸奥国柴田駅の所在について」『宮城考古学』第8号 157～166頁 宮城県考古学会
- 芳賀寿幸 2007「西木戸太郎國衡最期の地について」『宮城考古学』第9号 171～178頁 宮城県考古学会
- 芳賀寿幸 2008「正治二年芝田次郎追討合戦の謎を探る」『蔵王東麓の郷土誌 中橋彰吾先生追悼論文集』181～194頁 中橋彰吾先生追悼論文集刊行会

抄 録

兎田瓦窯跡

上野山丘陵から派生した丘陵裾部、南斜面に立地している（標高 40 数メートル）。現在、遺跡は白石川に面しているが、もとは丘陵間の奥まった地に位置していた。船迫団地造成工事によって、遺跡の南側に存在した独立丘陵が削平されたため、遺跡周辺の昔日の地形景観は著しく変貌している。

この遺跡は、立石長者の屋敷跡などと伝えられ、古くから布目瓦の出土地として知られていた。「安永風土記御用書出」に村田町沼辺との境、立石付近から古瓦が出土したことが記載されているが、この遺跡を指すものと思われる。

昭和 47 年に、船迫団地造成工事の事前調査が実施されたが、遺構は発見されず、遺跡の性格は解明されなかった。出土瓦も奈良時代から平安時代にかかるものと漠然と推測されたにとどまっていた。

しかし、昭和 57 年、先の調査地点の斜面上方において遊歩道工事が施行され、その際、多量の布目瓦が出土するとともに焼土・木炭・窯壁などが発見され、瓦窯跡であることが判明するにいたった。斜面に築かれた地下式窖窯と考えられる。

この兎田瓦窯跡出土瓦のうち、重弁蓮華文軒丸瓦は、仙台市郡山遺跡出土軒丸瓦に酷似している。そして、この郡山遺跡出土瓦は、多賀城の創建瓦（720 年代）より古く、奈良県桜井市、山田寺跡出土瓦（白鳳期）の系譜をひく瓦ではないかと、大きな関心を集めている。

この兎田瓦窯跡で生産された瓦の供給先が大きな問題といえるが、柴田郡内で布目瓦を出土する遺跡は、あまり知られておらず、大河原町の中屋敷遺跡が唯一知られているにすぎない。しかし、この中屋敷遺跡出土瓦と兎田瓦窯跡遺跡出土瓦とは、既に述べたように類似点はみいだされない。一方、前述の郡山遺跡に供給した瓦窯跡は、同遺跡から南西へ約 3 キロに位置する西台・木戸口瓦窯跡であるといわれている。

したがって、この兎田瓦窯跡出土瓦は、いまだ所在の確認されていない柴田郡衙を含めて、郡内の官衙遺跡あるいは寺院に供給された可能性が考えられ、今後の調査の進展が大いに期待される。

ともあれ、兎田瓦窯跡は、県南地方における最古の瓦窯跡の一つとみられ、柴田郡の古代史の解明に大きな鍵を握る重要な史跡である。

（1989 年 3 月『柴田町史』通史篇 I より）

